

濁してもく春の隅田川  
元日や我につとめるわか心  
朝夕もなき黄鳥のきけん哉  
をれば散紅葉を人の折にけり

菜畑はさきにぬれけり春の雨

寒うても暖うても野は梅の花  
西へ日の廻りてぬくし大根引  
さやくくと朝風嬉しかさり竹  
もの既に春にうつりぬ夜の静  
いちりん春のこもるや梅の花  
一たては滴て燈をひく雑煮哉  
人の日を大事にそよく柳かな  
みそさ、い啼や雪ちる小柴垣

北陸道

燈は客の馳走や花とふた明り  
声のうら聞せて猫の別れかな  
年札や枝町ことに跡もとり  
二三輪屠蘇にもちらせ梅の花  
けふたつた春にはやあるゆふへかな  
蜘蛛の囀に雨粒見へてけさの秋

山陰道

陽炎や鴨はそろく丘歩行  
尾長には馴すひとむれ四十雀  
山陽道  
其うちに燈もともりけり夕霞  
月さすや流れしたいの涼み舟

南海道

鳥たつてますくきよし秋の水  
裸火の遠あかりする若葉かな  
す、しさに起て月夜の蚊遣かな  
見て廻るたけは日のあり萩の花  
大空のた、かた隅を恵方かな  
五月雨の晴間に高し水の音  
風の掃きつて行梢かな  
しくる、や今にも竹はのひる音  
鶯やぬかりかちなる反圃道  
さたまらぬ影もたのみの柳かな  
弓提た子の潜り入るやなき哉

米室 竹畑 多代女 一止 清民 壮山 樗影 静夫 舍用 御風 素山 喙風 璪山 珉子 大夢 丹嶺 乙良 茶山 竹堂 湧瀧 青池 梅臣 甘古 其秀 鷗池 蔣池 墨雨 鶯居 菊圃女 黙翁 元史 起月 愷園 月器

臙夜や思ひかけなき旅かへり  
谷風に草は削れて梅の花  
宵の雨もつて玉まぐ芭蕉かな  
おくまりし住居のおくやことし竹  
また人もす、しとは見すかきつはた  
峰しんと高し禁は蟬の声  
ひらきけり鉄の音にかきつはた  
まてしはしなき落舟をほと、きす  
山寺は宇治よりはやき茶摘かな  
若葉した梅一本や藪の中  
宵月をたよりにもする田植かな  
朝の間は人の来て居ぬ牡丹かな  
団扇のみ見へてしつかかな坐敷かな  
草刈のくさにあきれる四月かな  
葉となりて雫のしけさくら哉  
青梅の日にくかはる日影かな  
吹通す風の冷つく新樹かな  
雫にもならぬ雨なりけしの花  
卯の花や濁るほと汲井戸の水  
雲と声あとに残してほと、きす  
朝ことに鳥の音たかし若楓  
蚊屋に夜を残してたつや旅の人  
竹藪へ割込む椈の小枝かな  
野に暮て里の燈を見る袷かな  
卯の花や手枕なから夕なかめ  
開く日の一日ゆとる牡丹かな  
葉桜や気の隙らしき人通り  
草むらを出をしむ昼の水鶏哉  
はつ袷着なれぬ内はものさひし  
夢ひとつ見もせぬ蚊屋のはしめかな  
散残るはなも明りてほと、きす  
翌日もこの日和はほしやころもかへ  
筭や顔も洗はず見てまはる  
雨はしくやうに見へけりけしの花  
明やすき夜に似ぬ木々の雫かな  
雨晴や身かるきふりの団扇壳  
蝶々もいまに機嫌やころもかへ  
葉桜や鳴声かるき朝の鳥

而康 婦牛 思風 乘陽 北施 抱節 鯉勢 乘夫 搏外 宗也 桃志 三經 嵐艸 左郊 草尺 落丘 松裡 非々 青葉 帆風 董坡 春岱 楚宮 龜年 月古 逸松 權居 得二 梧井 天馬 東阡 羅村 騏郷 蟬城 應可 正孝 葛路